

こたろく53 1990.10

産婦人科医、中村章先生を講師に、

食物素材の効用や、病気と体の関係を

学ぶ「薬膳同好会」。ちよつびり難しそう(?)。

いえいえ、なかなか楽しい同好会です。

薬膳同好会



全 員 集 合

舞子の町にエキゾチックな香りを放つ建物、移情閣。その二階で毎月第四土曜日の午後2時から3時ごろまで「薬膳同好会」の集まりがあります。

この同好会は、中国の文化、運動などに親しむ「移情閣友の会」の活動の一環として、昭和63年3月に始まりました。

「薬膳とは、未病治す」といって、予防医薬のことなんです。つまり、薬を飲まずに、毎回の食事で病気を予防しようとするのが薬膳です。会では、食物の各々の特質を勉強したり、病気についての知識を学んだりしているんですよ」と代表の田中麗(れい)さん。

この日は、同会の講師を務める産婦人科医、中村章さんが十一名の会員を前に「肥満」の話題キストは、中村さん自身が訳した中国医学の本です。会員の中からは、肥満の診断方法や食事療法についての熱心な質問も飛びかい、真剣さのなかにも和やかな空気が漂います。

「この会で実際に料理はしません、家での料理に役立てています」との声が聞かれました。